

## 花火大会の由来や歴史は・・・？

花火大会がなぜあるのか、またなぜ夏の時期なのか？

花火のルーツは、中国で火薬製造の基本と言われる硫酸塩の混合物が発見されそれを元にした狼煙(のろし)が作られたことが始まりだとされています。

日本で初めて花火を見たのは **伊達正宗、徳川家康の説があります。**

将軍家、諸大名の間で花火が流行し、やがて花火を打ち上げる機会が増えた為、花火師というものが誕生するようになります。

一度は聞いたこともあるほど有名な「鍵屋」は花火師の名前です。

よく花火を打ち上げられた時に「かぎやー」や「たまやー」と掛け声を掛けますね。

「鍵屋」は江戸時代幕末府御用達の花火屋として大きく成長し、8代目清七が優秀な番頭だったため、のれん分けを許され「玉屋」になりました。

その後玉屋は、不慮の失火によりわずか 30年という短さで廃業に追い込まれてしまいます。親玉の鍵屋は戦前まで続いたとされています。

花火は先祖供養の意味やお祭りを盛り上げるために打ち上げられるようになりました。理由としては、送り盆の時期に供養や、あの世へ帰れるように空へ音で合図している為だと言われています。

13日から16日の四日間が一般的にお盆と呼ばれていますが、その中でも 13日は先祖が家に帰ってくる **迎え盆**、16日は先祖を送り出すための **送り盆**と呼ばれています。送り盆は、送り火を焚くことで正しくあの世へ帰ることを導きますが、花火も同様に、先祖様をお送りするためのものでしたが、それがいつの間にかイベント化となり、夏の風物詩となったとされています。

花火大会は300年ほど前から始まった伝統的なもので、お盆と火は密接な関係であり、**大文字や灯籠流しも送り盆の一つです。**

<https://osusume-idea.com/archives/3966>・・・引用

